

## 学長のコラム

### 止まらない新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大

新型コロナウイルスの拡大が止まらない。本学では卒業式と入学式を中止し、授業開始を4月27日に延期し、当面は遠隔授業で実施予定である。4月7日には東京など7都府県に緊急事態宣言が発出されたが、4月16日になって熊本を含む全国に対象地域が拡大された。一層の感染防止対策が必須となった。4月18日時点で国内感染者は1万人を超えて10,404人となり、死者は223人にのぼっている(クルーズ船をのぞく)。

日本医師会の横倉会長が3月30日の記者会見で、2009年に公開された映画『感染列島』に言及された。正体不明のウイルスが日本中に蔓延し、院内感染が広がり「医療崩壊」が生じ、感染した医師や看護師も死亡するなどの感染パニック映画である。公開当時、荒廃した熊本市中心部(通町筋)の映像が流れるという話題に惹かれて見たことがあるが、当時は創作上の出来事だと現実味を感じなかった。映画の評判もイマイチだったと聞く。ところが、今回、改めてネット配信で視聴すると、現在の状況とより二つであることに驚いた。それまでの感染パニック映画とは異なり、気候変化や特效薬の出現で一気に終息に向かうという結末ではなく、1,000万人以上死亡という犠牲の末に、半年後のワクチン完成によってやっと終息に向かうというストーリーも現実的である。横倉会長のメッセージは続く「(この映画を見て)ぜひ“感染症の恐ろしさ”というのを国民の皆様知って頂きたい・・・」。

同じコロナウイルス感染症であるSARS(重症急性呼吸器症候群)について国立感染症研究所などの資料を調べてみると、2002年11月に中国広東省で集団感染が確認され、香港、ベトナム、台湾、カナダ等に伝播し、37ヶ国で774人が死亡した。WHOを中心に各国が協力し隔離や検疫が徹底された結果、治療法は確立せずワクチンも完成しないまま、2003年7月5日には終息宣言が出された。幸い日本では感染者が出なかったが、治療法やワクチンの研究が継続していれば、今回役に立ったかも知れない。

SARSは封じ込めが成功したケースであるが、COVID-19はすでに世界中に感染が蔓延し封じ込めは失敗した。映画では半年後にワクチンが完成しているが、現在開発中のワクチンの市場展開までには1年~1年半は必要かも知れない。この間、経済の停滞を最低限に抑さえつつ犠牲者を如何にして最小数に留めるかが世界各国の課題となっている。山中伸弥教授の「新型コロナウイルスとの闘いは短距離走ではありません。1年は続く可能性のある長いマラソンです。」という言葉が現実味を増してきている。COVID-19を克服するまでの道のりは長い。



主役を待ち続けるキャンパスの桜(4月5日撮影)

### 4月・5月の主な行事予定

4/27(月)	(学部)授業開始
5/15(金)	開学記念日(授業日)
5/27(水)	银杏学園理事会・評議員会

※4/27時点での予定です。

### キャリア教育研修センターオリエンテーション

4月2日、脳卒中看護分野一期生3名および特定行為研修課程一期生2名に対してオリエンテーションを実施しました。オンラインによって出席を自粛した研修生とつながり、竹屋学長からの入学許可およびご挨拶をタイムリーに届けることができました。

また、働きながら受講しやすい環境のために、e-learningを取り入れていたことから、講義も予定通り開始しています。このような危機にあるからこそ、看護専門職としての役割を明確に持ち、学びを継続することで社会に還元していただきたいと思います。

(文責：キャリア教育センター 准教授 飯山 有紀)



### 「オレンジカフェおおくぼ」横断幕作成

特別養護老人ホーム サンビレッジ高平台から、施設が開催している「オレンジカフェおおくぼ」の横断幕の作成に学生の力を借りたい(イメージやデザイン)と申し出があり、参加者を募ったところ、3名の学生がボランティアで協力してくれました。この春看護学科を卒業した篠原 佑莉子さん、萬福 千寛さん、リハビリテーション学科生活機能療法学専攻3年森口 汐梨さんの3名です。

この3名で、「ロバ隊」と称し、授業や国家試験の勉強の合間を縫って活動し、横断幕のデザインの作成に奮闘、1月に完成しました。このたび、完成したデザインをあしらった横断幕が完成したとのことで、「熊本市高齢者支援センター ささえりあ 清水・高平」の片山様、田中様から写真を送っていただきました(大窪公民館に掲げてみましたとのことです)。「地域の皆様と大切にさせていただきます」とのコメントもいただきました。(文責：看護学科 教授 多久島 寛孝)



## 令和2年度科学研究費採択

令和2年度の科学研究費助成事業（基盤研究、若手研究）に7件新規採択されました。おめでとうございます。（敬称略）

種目	氏名	期間	研究課題名	交付予定額 (直接経費)
基盤研究(C)	田中 聡	R2-4	Importin13によるタンパク質の局在変化が減数分裂を制御する分子機構の解明	3,400,000
基盤研究(C)	川口 辰哉	R2-4	地域における薬剤耐性克服を目指したワンヘルスアプローチによる耐性菌の分子疫学解析	3,300,000
基盤研究(C)	飯山 有紀	R2-6	軽度認知障害診断直後からの教育プログラムによる支援体制の構築	2,900,000
基盤研究(C)	申 敏哲	R2-4	舌への体性感覚刺激が認知症病態動物モデルラットに及ぼす影響	2,200,000
若手研究	田中 恵理	R2-4	「身体鍛錬」から読み解くジェイムズ・ジョイス作品の身体表象と社会的背景との関連性	3,100,000
若手研究	登尾 一平	R2-4	血小板製剤を使用した肝疾患における新規治療法確立を目指した基礎研究	2,000,000
若手研究	戸渡 洋子	R2-5	ケイパビリティアプローチに基づく健康の公平をまもる公衆衛生看護実践モデルの構築	3,300,000

## 新型コロナウイルス感染対策WG紹介

昨年末に中国武漢で忽然と現れた新型コロナウイルスによる感染症は、日本でも増加の一途をたどり、新学期が始まってからも収束の見通しはたまたず、4月17日には政府による「緊急事態宣言」が全国に拡大されました。本学でも、2月20日には新型コロナウイルス感染症への対応を協議すべく「危機管理委員会」が開催され、その下部組織として具体的対策を立案・実行する「新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループ(以下、コロナWG)」が発足しました。メンバーは、感染制御に精通した川口(医検)および森(看護)を中心に、各学科より井上(看護)、與座(P.T)、井崎(ST)、小手川(OT)、原口(医検)、保健室より那須、友清、事務局より牛島(総務)の総勢10名の精鋭から構成され、病院組織で例えるなら、Infection Control Team(ICT)そのものと言えます。主な活動は、毎週月曜日の定例ミーティング、マニュアル作成(教職員用・学生用ともにActive Academy AdvanceのWebフォルダからダウンロード可能)、環境整備(アルコール手指消毒薬の配置、高頻度接触面のアルコール清拭など)、学生・教職員への教育・啓発、消耗品管理、有症状者サーベイランス、学内でのsocial distancingへの対応など多くのことを行なっています。当分は気が抜けない状況が続きそうですが、コロナWGでは引き続き、リスク軽減のために尽力したいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。(文責：新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループ)



## Zoom・MS Teams 導入ワーキンググループの報告

今月よりZoom・MS Teams 導入ワーキンググループの担当になりました大学院研究科長の土井です。さて、このワーキンググループ(WG)は元々、COVID-19の爆発的拡がりの可能性を鑑み、本学学生に対して対面授業以外の手段(それを遠隔授業と定義する)による授業展開を行うことで立ち上がった遠隔授業WGが名称変更になったものです。実は、遠隔授業と言っても幾つかの方法があります。それについては、本学の教務委員会から導入手順が出ていますが、その遠隔授業における1つの発展型としてパソコン、タブレットやスマートフォンを用いたweb上でのオンライン授業(一方向型あるいは双方向型)というものがあります。そのweb上でのオンライン授業を行うには、Zoom社のZoom、Microsoft社のTeams、Google社のMeetなどのソフトウェアを利用する必要があります。まだどれを用いるのか決まっていない状況ではありますが、テレビ会議で頻りに用いられるZoom、本学のPCシステムやOffice365にも含まれているTeamsはその代表格にあり、それ故WGの名称になった次第です。それ故、我がWGの目的は、名前の通りZoom或いはMS Teamsを中心とした外部のシステムを用いて、将来(それは近いかもしれませんが、)“web上でのオンライン授業ができるようにハードとソフトの両面を整えていく事”になります。勿論、私も含めて今まで対面授業以外の手段を講じたことのない本学教員にとって、いきなりそのような“web上での授業を行って下さい”と言われても、困難であることは想像に難くないと思われます。よって、4月27日(月)から行われる遠隔授業においては、教務委員会の遠隔授業導入手順に従って、Active Academy Advanceを用いた授業方法にて実施していただくこととなります。しかし、それと同時に我々Zoom・MS Teams導入WGは、より効果的な遠隔授業を実現するために牛歩のごとく前に進んでおります。先々週でしょうか、京都大学の本庶佑特別教授が全世界の至るところでCOVID-19との戦争が起こっている。“見えない忍者”であるCOVID-19に立ち向かうためには長期戦も覚悟する必要があると述べております。我々Zoom・MS Teams導入WGとしても本学教職員の方々に対する啓発と理解を深めるために長期戦を覚悟し、少しでも教職員の方々に慣れていただく助けとなるべく努力したいと存じます。Zoomの無料での利用には、いくつかの制限があるものの十分に活用可能であり、さらに利用が増えれば有料のサイトライセンス取得も視野に入れていきます。すでに多くの教職員の方々にZoomを体験して戴いておりますが、Zoom利用のファーストステップとして、Zoomを用いた遠隔会議開催の実現を考えております。どうぞ温かいご支援を宜しくお願いいたします。(文責：Zoom・MS Teams導入ワーキンググループ座長 土井 篤)

国家試験合格状況※下段の（ ）は全国

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	昨年の合格率 (%)
第 106 回 保健師	21 (8,233)	21 (7,537)	100.0 (91.5)	90.0 (81.8)
第 109 回 看護師	109 (65,568)	106 (58,513)	97.2 (89.2)	96.7 (89.3)
第 103 回 助産師	19 (2,105)	19 (2,093)	100.0 (99.4)	100.0 (99.6)
第 66 回 臨床検査技師	103 (4,854)	96 (3,472)	93.2 (71.5)	83.2 (75.2)
第 55 回 理学療法士	43 (12,283)	42 (10,608)	97.7 (86.4)	93.8 (85.8)
第 55 回 作業療法士	42 (6,352)	41 (5,548)	97.6 (87.3)	91.1 (71.3)
第 22 回 言語聴覚士	47 (2,486)	44 (1,626)	93.6 (65.4)	97.8 (68.9)

COVID-19に係るこれまでの主な対応

(\*印は本学以外での対応)

1 / 31	*WHO 緊急事態宣言 新型コロナウイルスへの注意喚起
2 / 20	危機管理委員会開催、新型コロナウイルス感染対策 WG 設置
2 / 21	新型コロナウイルスに関する対応 (第 1 報)
2 / 26	危機対策本部設置 (4/27 現在で 25 回の打合せ開催)
3 / 9	卒業・修了式の中止決定
3 / 26	授業開始日の延期決定 (4/27 開始)
4 / 1	入学式の中止決定
4 / 7	遠隔授業導入 WG 設置 (後に名称変更)
4 / 10	非対面式の授業実施方針公表
4 / 16	*全都道府県に緊急事態宣言発出
4 / 20,22	遠隔授業デモンストレーション
4 / 21	*熊本県知事による大学の休業要請 出勤者削減の対応開始
4 / 23,24	Zoom 体験会
4 / 27	遠隔授業の開始

(文責：危機対策本部)

桜

キャンパス内や大学近辺の桜の写真です。新型コロナウイルスが早く終息するといいですね。(撮影：企画・人事課)



私の秘話ヒストリー

今回は保健室的那須 知広さんに投稿していただきました。

私は 4 歳の時に小児喘息で小児病院へ入院しました。当時は親の面会も週 2 回の短時間、朝起きたら外で乾布摩擦などそこそこ厳しい入院生活でした。看護師さんが私の母代わりとなり、毎日膝の上に座らせてくれて本を読んでくれました。この看護師さんとの出会いが 4 歳の心を動かしました。「将来の夢はなに？」と聞かれたらいつも看護師さんといい、「だれかの母親代わりになれるような看護師になりたい」という気持ちだけで大学入学まで来ました。看護師という仕事の奥深さを病院実習で初めて知った気がします…。

今は奇跡的にとれた保健師免許のおかげで、本学に入職できました。入職当時保健室に勤務されていた S 先生が「保健室では、時にお母さん、時にお姉さん、時に友人の立場になって話をきいてあげるといいよ」とアドバイスをして下さいました。入職当時は難しかったのですが、わたしの原点に通じるものがあると気づいたとき仕事のやりがいを感じました。

そんなわたしは本学の一期生。陰ながら学生を見守れる存在でいたいと思う今日この頃です。